

7 外国人留学生特別科目

	日本語中級A
	日本語中級B
	日本語上級A
	日本語上級B
	日本語会話A
◆	日本語会話B
	日本事情A
	日本事情B
	日本語表現論Ⅰ
	日本語表現論Ⅱ
	Japanese Language

I. 科目情報

科目名（日本語）	日本語中級 A		単位	3
科目名（英語）	Intermediate Japanese A		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	留学生	開講時期	前期	
担当教員	伊藤 晴美			
授業概要	この授業では日本語能力試験 N2 合格を目標とし、中級レベルの基礎を固めるための 230 項目の文型表現、準中級レベルの漢字 350 字の読み書きを習得します。また、各課のトピックについてディスカッションし、意見を短い作文にする練習を通して「アウトプット能力」を養います。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	佐々木仁子・松本紀子『日本語総まとめ N2 文法』 アスク 2010 年 1,200 円 適宜、プリントも配布する。			
参考図書・教材等	佐藤尚子・佐々木仁子『留学生のための漢字の教科書 中級 700 [改訂版]』 国書刊行会 2017 年			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	適宜、個別の質問・相談等に応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常会話において基本的な中級文型が適切に使える。 2. 準中級レベルの漢字を含む熟語の意味を理解し、日常生活で使える。 		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な中級文型の意味、文法が理解できる。 2. 準中級レベルの漢字の読み書きができる。 		
成績評価の基準			
	S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
	レポートにおいて基本的な中級文型が適切に使える。 準中級レベルの漢字を含む熟語の意味を理解し、場面に応じて適切に使える。		
	A：80～89 履修目標を達成している。		

<p>日常会話において基本的な中級文型が適切に使える。</p> <p>準中級レベルの漢字を含む語彙の意味を理解し、日常生活で使える。</p>
<p>B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。</p>
<p>基本的な中級文型の意味、文法を理解し、簡単な短文作成ができる。</p> <p>準中級レベルの漢字の読み書きができ、熟語での使用ができる。</p>
<p>C：60～69 到達目標を達成している。</p>
<p>基本的な中級文型の意味、文法が理解できる。</p> <p>準中級レベルの漢字の読み書きができる。</p>
<p>不可：～59 到達目標を達成できていない。</p>
<p>基本的な中級文型の意味、文法が理解できていない。</p> <p>準中級レベルの漢字の読み書きができていない。</p>

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70				30	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	「その他」は、授業中の主体性、授業態度を指す。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1 ～ 30	<p>中級文法（N2文法）</p> <p>1 おぼえずにはいられない</p> <p>2 やればやるほどおぼえられる</p> <p>3 おぼえないわけにはいかない</p> <p>4 おぼえざるをえない</p> <p>5 おぼえてみようではないか</p>	<p>文法説明</p> <p>練習問題</p> <p>短文作成</p> <p>文法テスト（2回）</p>	復習

31 ～ 45	準中級漢字（N3・N2 漢字） 1 課～15 課	漢字の音読み・訓読み、書き順の練習 熟語説明 漢字小テスト（10 回）	復習
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	日本語中級 B		単位	3
科目名（英語）	Intermediate Japanese B		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	留学生	開講時期	後期	
担当教員	伊藤 晴美			
授業概要	この授業では日本語能力試験 N2 合格を目標とし、中級レベルのやや難しい文型表現を 230 項目、中級レベルの漢字 350 字の読み書きを習得します。また、各課のトピックに関する要約文、意見文の練習も併せて行い、「アウトプット能力」を養います。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	佐々木仁子・松本紀子『日本語総まとめ N2 文法』 アスク 2010 年 1,200 円 適宜、プリントも配布する。			
参考図書・教材等	佐藤尚子・佐々木仁子『留学生のための漢字の教科書 中級 700 [改訂版]』 国書刊行 2017 年			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	適宜、個別の質問・相談等に応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	1. やや難しい中級文型を適切に使い、一般的なトピックに関して意見が述べられる。 2. 中級レベルの漢字を含む熟語の意味を理解し、日常生活で使える。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	1. やや難しい中級文型の意味、文法が理解できる。 2. 中級レベルの漢字の読み書きができる。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
やや難しい中級文型を適切に使い、レポートで意見が述べられる。 中級レベルの漢字を含む熟語の意味を理解し、場面に応じて適切に使える。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

やや難しい中級文型を適切に使い、一般的なトピックに関して意見が述べられる。 中級レベルの漢字を含む熟語の意味を理解し、日常生活で使える。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
やや難しい中級文型の意味、文法が理解でき、簡単な短文作成ができる。 中級レベルの漢字の読み書きができ、熟語での使用ができる。
C：60～69 到達目標を達成している。
やや難しい中級文型の意味、文法が理解できる。 中級レベルの漢字の読み書きができる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
やや難しい中級文型の意味、文法が理解できていない。 中級レベルの漢字の読み書きができていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70				30	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	「その他」は、授業中の主体性、授業態度を指す。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1 ～ 30	中級文法（N2文法） 6 やるからにはおぼえよう 7 がんばればおぼえられる というものだ 8 むずかしい。それでもおぼえよう 実践問題	文法説明 練習問題 短文作成 文法テスト（2回）	復習

31 ～ 45	中級漢字（N2 漢字） 16 課～30 課	漢字の音読み・訓読み、書き順の練習 熟語説明 漢字小テスト（10 回）	復習
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	日本語上級 A		単位	3
科目名（英語）	Advanced Japanese A		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	留学生	開講時期	前期	
担当教員	伊藤 晴美			
授業概要	この授業では日本語能力試験 N1 合格を目指し、上級レベルの日本語を適切に産出するための上級文法及び上級語彙 600 語を習得します。また、日本社会でのコミュニケーションにおいて重要な役割を担う敬語の適切な運用力を高めます。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	佐々木仁子・松本紀子『日本語総まとめ N1 文法』 アスク 2010 年 1,200 円 適宜、プリントも配布する。			
参考図書 ・教材等	小川誉子美・前田直子『日本語文法演習 敬語を中心とした対人関係の表現 一待遇表現一』 スリーエーネットワーク 2003 年 安藤栄里子他『耳から覚える日本語能力試験 語彙トレーニング N1』 アルク 2012 年			
実務経験を 生かした授業				授業中 の撮影
学習相談 ・助言体制	適宜、個別の質問・相談等に応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上級文型を適切に使い、様々なトピックに関して意見が述べられる。 2. 高度な語彙の意味やコロケーション（連語）を理解し、レポートや論文において適切に使える。 3. 敬語の待遇表現の中における位置づけと機能及び表現形式を整理し、場面に応じて柔軟に使える。 		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上級文型の意味、文法が理解できる。 2. 高度な語彙の意味やコロケーション（連語）の理解ができる。 3. 敬語の待遇表現の中における位置づけと機能及び表現形式を整理し、場面に応じた使い方の理解ができる。 		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

<p>上級文型を適切に使い、専門的なトピックに関して意見が述べられる。</p> <p>高度な語彙の意味、コロケーション、ニュアンスの違いを理解し、レポートや論文において適切に使える。</p> <p>敬語の待遇表現の中における位置づけと機能及び表現形式を整理し、ビジネス場面で柔軟に使える。</p>
<p>A：80～89 履修目標を達成している。</p>
<p>上級文型を適切に使い、様々なトピックに関して意見が述べられる。</p> <p>高度な語彙の意味やコロケーションを理解し、レポートや論文において適切に使える。</p> <p>敬語の待遇表現の中における位置づけと機能及び表現形式を整理し、場面に応じて柔軟に使える。</p>
<p>B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。</p>
<p>上級文型の意味、文法を理解し、短文作成ができる。</p> <p>高度な語彙の意味やコロケーションを理解し、短文の中で使える。</p> <p>敬語の待遇表現の中における位置づけと機能及び表現形式を整理し、場面に応じた使い方ができる。</p>
<p>C：60～69 到達目標を達成している。</p>
<p>上級文型の意味、文法が理解できる。</p> <p>高度な語彙の意味やコロケーションの理解ができる。</p> <p>敬語の待遇表現の中における位置づけと機能及び表現形式を整理し、場面に応じた使い方の理解ができる。</p>
<p>不可：～59 到達目標を達成できていない。</p>
<p>上級文型の意味、文法が理解できていない。</p> <p>高度な語彙の意味やコロケーションの理解ができていない。</p> <p>敬語の待遇表現の中における位置づけと機能及び表現形式が理解できていない。</p>

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70				30	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	「その他」は、授業中の主体性、授業態度を指す。						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／進め方	事前・事後学習	
			【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回)	【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回：通年) 90分 (30回：半期2コマ連続)

1 ～ 15	上級文法（N1 文法） 1 努力してこそ合格できる 2 私なりに努力している 3 言うまでもなく、努力している 4 努力なくして合格はない 5 努力せずにはすまない	文法説明 練習問題 短文作成 文法テスト（2回）	復習
16 ～ 30	上級語彙（N1 語彙） 第1回～第15回	語彙・コロケーションの説明 語彙小テスト（10回）	復習
31 ～ 45	上級文法（敬語） 待遇表現と敬語 様々な表現と使い方	文法説明 練習問題 会話練習	復習
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
講義回数																			
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	日本語上級 B	単位	3
科目名（英語）	Advanced Japanese B	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	留学生	開講時期	後期
担当教員	伊藤 晴美		
授業概要	この授業では日本語能力試験 N1 合格を目指し、上級レベルの日本語を適切に産出するための上級文法及び上級語彙 600 語を習得します。また、日本社会でのコミュニケーションにおいて重要な役割を担う敬語の適切な運用力を高めます。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト	佐々木仁子・松本紀子『日本語総まとめ N1 文法』 アスク 2010 年 1,200 円 適宜、プリントも配布する。		
参考図書 ・教材等	小川誉子美・前田直子『日本語文法演習敬語を中心とした対人関係の表現 一待遇表現一』 スリーエーネットワーク 2003 年 安藤栄里子他『耳から覚える日本語能力試験 語彙トレーニング N1』 アルク 2012 年		
実務経験を 生かした授業		授業中 の撮影	
学習相談 ・助言体制	適宜、個別の質問・相談等に応じる。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上級文型を適切に使い、様々なトピックに関して意見が述べられる。 2. 高度な語彙の意味やコロケーション（連語）を理解し、レポートや論文において適切に使える。 3. 敬語の待遇表現の中における位置づけと機能及び表現形式を整理し、場面に応じて柔軟に使える。 		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上級文型の意味、文法が理解できる。 2. 高度な語彙の意味やコロケーション（連語）の理解ができる。 3. 敬語の待遇表現の中における位置づけと機能及び表現形式を整理し、場面に応じた使い方の理解ができる。 		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

<p>上級文型を適切に使い、専門的なトピックに関して意見が述べられる。</p> <p>高度な語彙の意味、コロケーション、ニュアンスの違いを理解し、レポートや論文において適切に使える。</p> <p>敬語の待遇表現の中における位置づけと機能及び表現形式を整理し、ビジネス場面で柔軟に使える。</p>
<p>A：80～89 履修目標を達成している。</p>
<p>上級文型を適切に使い、様々なトピックに関して意見が述べられる。</p> <p>高度な語彙の意味やコロケーションを理解し、レポートや論文において適切に使える。</p> <p>敬語の待遇表現の中における位置づけと機能及び表現形式を整理し、場面に応じて柔軟に使える。</p>
<p>B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。</p>
<p>上級文型の意味、文法を理解し、短文作成ができる。</p> <p>高度な語彙の意味やコロケーションを理解し、短文の中で使える。</p> <p>敬語の待遇表現の中における位置づけと機能及び表現形式を整理し、場面に応じた使い方ができる。</p>
<p>C：60～69 到達目標を達成している。</p>
<p>上級文型の意味、文法が理解できる。</p> <p>高度な語彙の意味やコロケーションの理解ができる。</p> <p>敬語の待遇表現の中における位置づけと機能及び表現形式を整理し、場面に応じた使い方の理解ができる。</p>
<p>不可：～59 到達目標を達成できていない。</p>
<p>上級文型の意味、文法が理解できていない。</p> <p>高度な語彙の意味やコロケーションの理解ができていない。</p> <p>敬語の待遇表現の中における位置づけと機能及び表現形式が理解できていない。</p>

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70				30	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	「その他」は、授業中の主体性、授業態度を指す。						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回：通年) 90分(30回：半期2コマ連続)

1 ～ 15	上級文法（N1 文法） 6 以前にも増して努力している 7 努力に努力を重ねている 8 結果はどうあれ、努力しよう	文法説明 練習問題 短文作成 文法テスト（2回）	復習
16 ～ 30	上級語彙（N1 語彙） 第 16 回～第 30 回	語彙・コロケーションの説明 語彙小テスト（10回）	復習
31 ～ 45	上級文法（敬語） 待遇表現が用いられる場面 まとめ	文法説明 練習問題 会話練習	復習
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	日本語会話 A		単位	3
科目名（英語）	Japanese Conversation A		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	留学生	開講時期	前期	
担当教員	伊藤 晴美			
授業概要	この授業では、学習者が持つ「時間をかけて考えれば話したり、書いたりできるのに、なかなかうまく使いこなせない」「自然な会話ができない」という悩みを解消するために、日本語運用能力、特に「話す力」を習得します。一般的な話題に関する会話練習も行い、コミュニケーションストラテジーを養います。また、様々な映像教材や日本文化体験を通して日本文化への理解を深めます。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	適宜、プリントを配布する。			
参考図書・教材等	授業の中で適宜紹介する。DVD も含む。 石黒圭編『会話の授業を楽しくする コミュニケーションのためのクラス活動40』 スリーエーネットワーク 2011年 『地味にスゴイ! 校閲ガール・河野悦子 DVD-BOX』 バップ 2017年 (DVD)			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	適宜、個別の質問・相談等に応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学生活及び日常生活における日本語での一般的なコミュニケーションが場面に応じて柔軟にとれる。 2. 一般的なトピックに関して他者の意見を理解した上で自分の意見を日本語で伝えることができる。 3. 日本の社会と文化への理解を深め、日本に関する様々な事象を多角的な視点で捉えることができる。 			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学生活及び日常生活における日本語での一般的なコミュニケーションがとれる。 2. 一般的なトピックに関して自分の意見を日本語で簡単に伝えることができる。 3. 日本の社会と文化、日本に関する様々な事象について理解できる。 			
成績評価の基準			

S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
	大学生生活及び日常生活における日本語での一般的なコミュニケーションが場面に応じて柔軟にとれる。 一般的なトピックに関して他者の意見や多様な価値観を理解した上で自分の意見を日本語で伝えることができる。 日本の社会と文化への理解を深め、日本に関する様々な事象を多角的な視点から捉えた上で自分の言葉で説明できる。
A：80～89	履修目標を達成している。
	大学生生活及び日常生活における日本語での一般的なコミュニケーションが場面に応じて柔軟にとれる。 一般的なトピックに関して他者の意見を理解した上で自分の意見を日本語で伝えることができる。 日本の社会と文化への理解を深め、日本に関する様々な事象を多角的な視点で捉えることができる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
	大学生生活及び日常生活における日本語での一般的なコミュニケーションがとれる。 一般的なトピックに関して他者の意見を聞き、自分の意見を日本語で伝えることができる。 日本の社会と文化、日本に関する様々な事象について理解し、自国との相違点について説明できる。
C：60～69	到達目標を達成している。
	大学生生活及び日常生活における日本語での一般的なコミュニケーションがとれる。 一般的なトピックに関して自分の意見を日本語で簡単に伝えることができる。 日本の社会と文化、日本に関する様々な事象について理解できる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。
	大学生生活及び日常生活における日本語での一般的なコミュニケーションが十分にとれない。 一般的なトピックに関して自分の意見を日本語で伝えることができない。 日本の社会と文化、日本に関する様々な事象について理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50		20		30	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	「その他」は、授業中の主体性、授業態度を指す。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）

1 ～ 30	日本語会話 1 トピック会話 2 タスク会話 3 場面会話 4 3分スピーチ（発表）	会話表現の説明 ペアワーク グループワーク フィードバック 会話テスト（2回）	
31 ～ 45	映像教材 DVD(連続ドラマ)を使用	キーワード・重要表現の説明 ディクテーション 内容理解 シャドーイング練習	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
講義回数																			
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	日本語会話 B		単位	3
科目名（英語）	Japanese Conversation B		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	留学生	開講時期	後期	
担当教員	伊藤 晴美			
授業概要	この授業では、単語や文法等の知識を有機的に結び付け、聞かれたことに対する応答や伝えたいことを、正確に、流暢に、内容豊かに話すといった「話す力」を伸ばします。また、身近な物事に関するディベート、関心があるテーマに関するプレゼンテーションを行い、状況に応じた日本語運用能力を学習します。映像教材や日本文化体験を通して日本文化への理解も深めます。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	適宜、プリントを配布する。			
参考図書・教材等	授業の中で適宜紹介する。DVD も含む。 石黒圭編『会話の授業を楽しくする コミュニケーションのためのクラス活動40』 スリーエーネットワーク 2011年			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	適宜、個別の質問・相談等に応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
<ol style="list-style-type: none"> ディスカッション、ディベートにおいて論理的思考力を養い、他者の意見を理解した上で自分の意見をまとめて伝えることができる。 パワーポイントを使用したプレゼンテーションを通してフォーマル及びアカデミックな場で発信できるようになる。 日本の社会と文化への理解を深め、日本に関する様々な事象を多角的な視点で捉えることができる。 			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
<ol style="list-style-type: none"> ディスカッション、ディベートにおいて論理的思考力を養い、意見を伝えることができる。 パワーポイントを使用したプレゼンテーションを通してフォーマル及びアカデミックな場での発信の方法について理解できる。 			

3. 日本の社会と文化、日本に関する様々な事象について理解できる。
成績評価の基準
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
ディスカッション、ディベートにおいて論理的思考力を養い、他者の意見を理解した上で自分の意見の要点をわかりやすく伝えることができる。 パワーポイントを使用したプレゼンテーションを通してフォーマル及びアカデミックな場で自信を持って発信できる。 日本の社会と文化への理解を深め、日本に関する様々な事象を多角的な視点から捉えた上で自分の言葉で説明できる。
A：80～89 履修目標を達成している。
ディスカッション、ディベートにおいて論理的思考力を養い、他者の意見を理解した上で自分の意見をまとめて伝えることができる。 パワーポイントを使用したプレゼンテーションを通してフォーマル及びアカデミックな場で発信できる。 日本の社会と文化への理解を深め、日本に関する様々な事象を多角的な視点で捉えることができる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
ディスカッション、ディベートにおいて論理的思考力を養い、他者の意見を理解した上で自分の意見を伝えることができる。 パワーポイントを使用したプレゼンテーションを通してフォーマル及びアカデミックな場での発信の方法について理解できる。 日本の社会と文化、日本に関する様々な事象について理解し、自国との相違点について説明できる。
C：60～69 到達目標を達成している。
ディスカッション、ディベートにおいて論理的思考力を養い、意見を伝えることができる。 パワーポイントを使用したプレゼンテーションを通してフォーマル及びアカデミックな場での発信の方法について理解できる。 日本の社会と文化、日本に関する様々な事象について理解できる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
ディスカッション、ディベートにおいて論理的思考力が不十分であり、意見を伝えることができていない。 パワーポイントを使用したプレゼンテーションにおいてフォーマル及びアカデミックな場での発信の方法について理解できていない。 日本の社会と文化、日本に関する様々な事象について理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		20		50		30	100
知識・理解	(DP 1)						
	(DP 2)						
思考・判断・表現	(DP 3)						
	(DP 4)						
関心・意欲・態度	(DP 5)						
	(DP 6)						
技能	(DP 7)						

	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考		「その他」は、授業中の主体性、授業態度を指す。						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習	
			【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回)	【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回:通年) 90分 (30回:半期2コマ連続)
1 ~ 15	ディスカッション・ディベート 1 ディスカッション 2 三角ディベート 3 ビンポンディベート 4 ディベート	ペアワーク グループワーク フィードバック 会話テスト (1回)		
16 ~ 30	プレゼンテーション 1 テーマ決め 2 序論作成 3 目次作成 4 本論作成 5 結論作成 6 パワーポイント作成 7 発表	各段階で添削 フィードバック		
31 ~ 45	映像教材 DVD(映画)を使用	キーワード・重要表現の説明 ディクテーション 内容理解 シャドーイング練習		
備考				

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																		
その他 ()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	日本事情 A		単位	2
科目名（英語）	Aspects of Japanese Society A		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	留学生	開講時期	後期	
担当教員	森脇敦史（代表）ほか			
授業概要	日本の各領域についての一般的知識を獲得し、かつ、各領域の知識を総合することで、日本社会・日本人・日本文化についての包括的な理解ができるようになることを目標とします。しかし、同じ留学生であっても日本語能力や日本理解の程度に違いがあるので、到達目標は代表者が個々の学生ごとに設定します。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	留学生			
テキスト	（必要に応じて配布する）			
参考図書 ・教材等				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	各担当者は自分の専門領域について授業外でも、オフィスアワーなどで対応します。また、それ以外の問題等については代表者が適切なアドバイザーに助言などを依頼します。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	日本社会についての基礎知識を身につけている。
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	自らの問題関心に基づき、日本社会の現状を探究する意欲がある。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
日本社会・日本人・日本文化についての一般的知識を修得する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
日本社会・日本人・日本文化についての包括的な理解ができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合						100	
知識・理解	(DP1)					◎	
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)					◎	
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)		授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	福岡・九州	吉武由彩	各回、担当教員が各領域の一般的知識を与えるために必要な資料を受講生に提供し、講義を行ないます。また、受講生の日本語能力や日本理解の違いにも配慮します。	授業内容に関連するニュースを読む
2	日本国憲法	森脇敦史		同上
3	司法制度	廣田久美子		同上
4	政治制度	岡本雅享		同上
5	地方自治	美谷 薫		同上
6	天皇制	藤澤健一		同上
7	日本経済 I	井上奈美子		同上
8	日本経済 II	井上奈美子		同上
9	医療制度	四戸智昭		同上
10	教育制度	董 秋艶		同上
11	保育・幼児教育	大久保淳子		同上
12	福祉制度 I	河野高志		同上
13	福祉制度 II	寺島正博		同上
14	科学研究 I	芋川 浩		同上
15	科学研究 II	芋川 浩		同上

備考		
----	--	--

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	日本事情 B		単位	2
科目名（英語）	Aspects of Japanese Society B		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	留学生	開講時期	前期	
担当教員	森脇敦史（代表）ほか			
授業概要	<p>本科目の目的は、日本のさまざまな領域に関する一般的知識を、それぞれの領域を専門とする本学専任教員が教授することにより、本学で学ぶ留学生の日本の社会や文化に関する理解を深めることです。それを通して留学生の日本人との相互理解を促進し、本学での学習や本学学生や地域住民との交流をより実り豊かなものとするを旨としています。後期開講の日本事情Aと合わせて受講することにより、通年で日本の全体像が理解できるように設計されています。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	留学生			
テキスト	（必要に応じて配布する）			
参考図書 ・教材等				
実務経験を 生かした授業				授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制	各担当者は自分の専門領域について授業外でも、オフィスアワーなどで対応します。また、それ以外の問題等については代表者が適切なアドバイザーに助言などを依頼します。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	日本社会についての基礎知識を身につけている。
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	自らの問題関心にに基づき、日本社会の現状を探究する意欲がある。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
日本社会・日本人・日本文化についての一般的知識を修得する。			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
日本社会・日本人・日本文化についての包括的な理解ができる。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合						100	
知識・理解	(DP1)					◎	
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)					◎	
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)		授業方法/進め方	事前・事後学習
				【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	人権論	堤圭史郎	各回、担当教員が各領域の一般的知識を与えるために必要な資料を受講生に提供し、講義を行ないます。また、受講生の日本語能力や日本理解の違いにも配慮します。	授業内容に関連するニュースを読む
2	都市/地方	美谷 薫		同上
3	家族	阪井裕一郎		同上
4	社会病理	堤圭史郎		同上
5	女性問題	井上奈美子		同上
6	世代論	中村晋介		同上
7	現代社会と嗜癖	四戸智昭		同上
8	宗教	中村晋介		同上
9	現代日本人のストレス	小山憲一郎		同上
10	労働問題	森脇敦史		同上
11	情報社会	石崎龍二		同上
12	少子高齢化	細井 勇		同上
13	企業と地域	佐野麻由子		同上
14	医療問題	小出昭太郎		同上
15	現代の重要課題	森脇敦史		同上

備考		
----	--	--

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	日本語表現論 I			単位	1
科目名（英語）	Japanese Language Expressions I			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格			
標準履修年次	留学生	開講時期	後期		
担当教員	西岡健治				
授業概要	レポートの書き方および文学テキストの学習方法について学ぶ。「レポートの書き方」「文学テキストとは?」「研究とは?」「多様な研究方法」について学習する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	留学生で日本語の論文作成を目指す者。日本語能力試験1級の能力がある者が望ましい。				
テキスト	講談社『知の教科書 批評理論』				
参考図書 ・教材等	河出ブックス『読者はどこにいるのか』・適宜、資料を配布する。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	質問があれば、いつでもメールしてください。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
読解作業を通して個別文学作品の意味を明らかにし、レポートを作成する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
文学作品を読んで、レポートが作成できる。			
成績評価の基準			
S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 個別文学作品の特徴を確かな根拠を踏まえてとらえており、論理的にも明確に表現されている。		
A : 80~89	履修目標を達成している。 個別文学作品の特徴を根拠を踏まえてとらえており、論理的に表現されている。		

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
個別文学作品の特徴を自分なりに根拠を踏まえとらえているが、表現に問題がある。	
C：60～69	到達目標を達成している。
個別文学作品の特徴は自分なりにとらえているが、表現に問題がある。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
個別文学作品の特徴がとらえられず、論理的にも表現できていない。	

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			70		30			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○		○			
思考・判断・表現	(DP3)		○		○			
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回：通年) 90分(30回：半期2コマ連続)
1	ガイダンス	講義、質疑応答	
2	作品読解①	レポート発表、討論 (以下同じ)	該当テキストを読んで来る(以下同じ)
3	作品読解②		
4	作品読解③		
5	作品読解④		
6	作品読解⑤		
7	作品読解⑥		
8	作品読解⑦		
9	作品読解⑧		
10	作品読解⑨		
11	作品読解⑩		
12	作品読解⑪		
13	作品読解⑫		
14	作品読解⑬		

15	作品読解⑭	レポート発表、討論、講義	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	日本語表現論 II			単位	1
科目名（英語）	Japanese Language Expressions II			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格			
標準履修年次	留学生	開講時期	前期		
担当教員	西岡健治				
授業概要	論文指導				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	留学生で日本語の論文作成を目指す者。日本語能力試験1級の能力がある者が望ましい。				
テキスト	資料は配布する				
参考図書・教材等	『近代文学 現代文学 論文レポート作成必携』学燈社				
実務経験を生かした授業					授業中の撮影
学習相談・助言体制	質問があれば、いつでもメールください。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	読解作業を通して新しい角度から理解した特徴を論文にする。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	対象作品（作家）に新しい角度からのアプローチを行い、その結果を目次にする。		
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 作品(作家)の特徴を根拠を踏まえてとらえており、論理的にも明確である。		
A：80～89	履修目標を達成している。 作品(作家)の特徴を根拠を踏まえてとらえており、それなりに論理的である。		
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		

作品(作家)の特徴を根拠を踏まえてとらえているが、表現に問題がある。
C：60～69 到達目標を達成している。
作品(作家)の特徴はそれなりにとらえているが、表現に問題がある。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
作品(作家)の特徴がとらえられておらず、表現にも問題がある。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70		30			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	○			
思考・判断・表現	(DP3)		○	○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回：通年) 90分(30回：半期2コマ連続)
1	ガイダンス	講義、質疑応答	
2	作品読解①	レポート発表、討論 (以下同じ)	該当テキストを読んで来る(以下同じ)
3	作品読解②		
4	作品読解③		
5	作品読解④		
6	作品読解⑤		
7	作品読解⑥		
8	作品読解⑦		
9	作品読解⑧		
10	作品読解⑨		
11	作品読解⑩		
12	作品読解⑪		
13	作品読解⑫		
14	作品読解⑬		
15	作品読解⑭	レポート発表、討論、講義	

備考	
----	--

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	Japanese Language		単位	1
科目名（英語）	Japanese Language		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	留学生	開講時期	後期	
担当教員	小池祐子			
授業概要	This course will introduce the students to the major characteristics of the Japanese language. The students will examine various linguistic aspects observed in Japanese and discover some of the organizing principles of the language. There will be frequent homework assignments over the course of the semester. In addition, the students will select one scholarly article concerning some aspect of the Japanese language and write a critical review paper.			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	Handouts will be provided.			
参考図書 ・教材等				
実務経験を 生かした授業				授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制	After class or by appointment			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	授業への参加度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			70	30			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	Introduction	Introduction to course requirements Lecture: Overview of the Japanese language	[Before class] Question: What are the differences between Japanese and your native language? [After class] Review Class 1. Complete Homework 1.
2	Genetic affiliation	Homework 1 (due) Lecture: genetic relationship, Language universals, Ryukyuan, Ainu	[Before class] Question: What language family does Japanese belong to? How about your native language? [After class] Review Class 2. Complete Homework 2.
3	Phonological structure	Homework 2 (due) Lecture: Japanese vowels and consonants, suprasegmental characteristics (pitch accent, mora-timed rhythm)	[Before class] Question: What Japanese sounds are difficult for you to produce? [After class] Review Class 3. Complete Homework 3.
4	Morphological structure	Homework 3 (due) Lecture: Morphemes, Word formation processes, The origin of Japanese words, Mimetics, Measure words	[Before class] Question: How many types of words do Japanese have? [After class] Review Class 4. Complete Homework 4.
5	Syntactic structure	Homework 4 (due) Lecture: Word order, Postpositions, Auxiliaries, Relative clauses, Topic, Ellipsis,	[Before class] Question: What are the characteristics of Japanese sentences? [After class] Review Class 5.

		Pronouns	Complete Homework 5.
6	Writing system	Homework 5 (due) Lecture: Types of writing systems in the world, How Japanese writing system was born, 4 kinds of Japanese characters	[Before class] Question: How was Japanese writing system born? [After class] Review Class 6. Complete Homework 6. Write your article review paper.
7	Honorifics	Homework 6 (due) Lecture: Japanese honorific system, Its relationship with Japanese culture, Giving & receiving verbs	[Before class] Question: How do you feel about Japanese honorific system? [After class] Review Class 7 Complete Homework 7 and your review paper.
8	Particles 'wa' and 'ga'	Homework 7 (due) Article review paper (due) Lecture: The differences between 'wa' and 'ga' (old/shared vs. new/given information)	[Before class] Question: What do you think are the differences between the particles 'wa' and 'ga'? [After class] Review Class 8
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		